

ローマ人への手紙:「救い」という王冠の宝石

29 – それは心の内での戦いです。

ローマ人への手紙 7:14-25

Grace Fellowship Church / Pastor Brad Bigney / March 30, 2014

注: 今回の説教内容は、Kris Lundgaard 氏の素晴らしい著書 The Enemy Within - Straight Talk About the Power and Defeat of Sin (「内にある敵-罪の力と打倒についての率直な話」)を参考にふくらませたものです。

キリスト者として、あなたが只中にいる戦いについての三つの事実

事実#1 – あなたが直面しているこの戦いは、避けられないものです。

あなたは、それから逃げることも、避けることもできません。自分は中立状態だと宣言して、不参加でいることはできないのです。私たちの先祖アダムの子孫として罪ある人間であるが故に、あなたはこの戦いの中にいるのです。

パウロは、罪がまだ私たちの内に生きていますと言っています。

v. 17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。

v. 20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。

v. 21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。

v. 23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているの見いだすのです。

パウロは、「原理・律法」という言葉を、私たちの人生において今も罪が振るっている力とコントロールを表す比喻として使っています。彼はこの言葉を、私たちが引力の原理について話すときのように使っています。それは標準的で全世界に共通の普遍的なものです。

キリストの十字架上の死が、罪の支配を打ち破り、罪の力を弱め、その根を殺して、信者の人生において永遠の死という実を結ぶことができないようにしてくださったのです。けれど罪はなくなってはいません。

第二コリント 4:3-4 ³それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているのです。⁴そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

私たちは、「既に」と「まだ」の間の期間で生きています。私たちは二つの異なった世界に片足ずつ入れており、それは時に痛みを伴います。

事実#2 - あなたが直面しているこの戦いは、心の内側の戦いです。

v. 17 パウロはそれを「私のうちに住みついている罪」と呼んでいます。

v. 21 パウロはそれを「私に悪が宿っている」と呼んでいます。

v. 23 パウロは「私のからだの中には異なった律法があつて、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ」と言っています。

キリスト者のみが、自分自身の中で罪の律法が働いていることを見始めるのです。

人々や状況というのは、単に、私たちの内にある罪の律法が表に現される機会に過ぎないのです。他の人々はあなたの最大の問題ではありません。

「もしサイが今、このレストランに入って来たなら、ここで大きな力を振るうことは否定できない。けれど、私は最初に立ち上がって、サイはこの場所において全く何の権威もないと、確信を持って言えるだろう。

- G.K. Chesterton

それが信者としての私たちの状態です。

私たちの人生において、今や唯一、道徳的権威的に支配するのは神の王国と統治のみです。けれどサイは、心の中で、いまだに荒い鼻息をたて、地面を踏み鳴らし、角を私たちに向けて突撃して来ます。何故なら内に住む罪は、まるでそのサイのように、私たちに対して力を振るおうとするからです。

ヘブル 12:1 「まつわりつく罪」

神の命令に従うと決心した時、それに抵抗する罪の風が顔に吹きつけるのを感じないという時はめったにありません。何故なら、サイが生きていて、罪の律法があなたの内側に宿っているからです！

内に住む罪という「サイ」に気が付くようになればなるほど、そのサイに踏み込まれたり、押し回されたりすることを少なくできるのです。

「このサイを知れば知るほど、あなたはサイを嫌うようになります。あなたはそれに対抗するために恵みにすがらようになるでしょう。けれど、もしあなたが罪に対する戦いの中で、サイの角から日夜身をかわさなければ、あなたはサイと仲良くすることになるかもしれません。あなたは自ら喜んでサイの力と支配の下に入るのです。この場合、あなたは、自分が神から新生した者なのか疑うべきです。神から生まれた者は誰も罪と和解して生きることが出来ません。…だからキリストのもとへと走るのです。キリストのみが、あなたの心のサイを殺すことができますのです。」 Kris Lundgaard, *The Enemy Within*, p. 33-34

事実#3 - 私たちが臨んでいるこの戦いは、この世においては決してやむことはありません。

この「罪と死の律法」は、神を知り、神を喜ばせたいという私たちの願いに対して、常に綱引きの状態にあります。私たちが良い意図をもった端から攻撃してきます。

あなたの人生で、最も穏やかでラクに思える時は必ずしもベストな時とは限りません。何故なら、それは単に、あなたが戦いをやめてしまっている時かもしれません。

もしあなたが、日常の生活において、常に罪と正面からぶつかっていなければ、多分あなたは間違った方向に向いて進んでいながら、それに気付かずにいることになるでしょう。

パウロは私たちの戦いを助けたいと願っています。ローマ7：14-25の正しい理解が無ければ、あなたは落胆して、何故いつまでたっても同じところで苦闘し続けるのかという恐ろしい有罪意識におちいってしまうでしょう。

戦いをあきらめてはいけません。そして絶望におちいってはいけません。

第二テモテ 4:7-8 ⁷私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。⁸今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。